

<研究名称>

腎症状を伴う IgA 血管炎の治療に関する検討

<実施責任者及び実施担当者>

実施責任者 所 属 皮膚科

職 名 部長

氏 名 木ノ内 基史

実施担当者 所 属 皮膚科

職 名 医師

氏 名 斎藤 剛史

<研究期間>

倫理委員会承認日～ 西暦 2023 年 3 月 31 日

<診療・研究の目的>

IgA 血管炎は IgA1 優位の免疫複合体が血管壁に沈着することに起因する血管炎で毛細血管から細動静脈を病変の主座とする。全身性に小血管がおかされる結果、皮膚以外にも消化管、関節、腎などに合併症を生じる。このうち腎炎はその一部で慢性腎不全へと移行し、成人例の約 10% が末期腎不全に移行するという報告もある<sup>(4)</sup>。このため積極的な治療介入が必要である。IgA 血管炎の腎症状は免疫複合体の沈着を伴う糸球体腎炎で IgA 腎症との鑑別は困難である。後者ではすでに扁桃摘出術が標準治療に組み込まれているが前者における同治療の有用性は十分に示されていない。今回我々は、腎症状を伴う IgA 血管炎の症例を集積して予後を後ろ向きに検証し、適切な治療法、特に扁桃摘出術の有用性につき検討を行う。

<実施内容（方法）>

(1) 研究の種類・デザイン 多施設共同観察研究（横断研究）

(2) 対象と方法

**対象症例数** 80 例（自施設 25 例、共同研究機関 55 例）

**方 法**

1) 選択基準

2007年1月から2020年8月までに旭川医科大学および関連施設でIgA血管炎患者において皮膚生検を施行し、病理組織学的に真皮毛細血管レベルの白血球破砕性血管炎蛍光抗体直接法による血管壁へのIgA沈着を確認できた症例とする

2) 調査項目

年齢、性別、臨床症状、血液検査結果、尿検査結果、細菌検査結果、

画像検査結果、病理検査結果、生理検査結果

3) データ集積手法

各施設の診療記録から結果を匿名化調査票を用いて収集しエクセルファイルにまとめEZRを用いた統計的解析を行う

4) 評価項目

- ・腎症状合併率
- ・内服治療のみによる改善率
- ・扁桃摘出術併用による改善率

<危険性（副作用）等>

(1) 予想される利益（効果）

本研究へ参加することにより対象者に直接の利益は生じないが、研究成果により将来の医療の進歩に貢献できる可能性がある

<倫理上問題になると考えられる事項>

<問い合わせ先>

当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ  
〒070-8530

旭川市曙1条1丁目1番1号

旭川赤十字病院

皮膚科 木ノ内 基史

TEL 0166-22-8111

FAX 0166-24-4648